

PLEIADES



「南十字座と散光星雲（イータ・カリーナ）」フオグフィルター使用
詳細データは2ページ参照

札幌天文同好会 Sapporo Astronomy Club

2008年オーストラリア星見紀行

生田 盛

今年も昨年に引き続き、オーストラリアに星見に行って来ました。
今回は望遠鏡ショップ「シュミット（趣味人）」（店長 宮崎淳一氏）の開店一周年記念で、総勢16名でした。

昨年と同一のパス南方150kmのSpring Hills Farmへ、4月28日に出発し、5日間にわたり観測しました。お天気は4勝1分けで、皆さん夫々満足な成果をあげられたようです。
私の狙いは、「我が銀河系天の川」の「観望と広角

レンズによる撮影」です。オーストラリアの大地に寝っ転がって漆黒の空に輝く星（「肉眼で7等星」が見えたとの話あり）を眺めていると「私もまた宇宙人」との思いを強くします。
持参した天の川観望用の低倍率双眼鏡（2.3倍、視

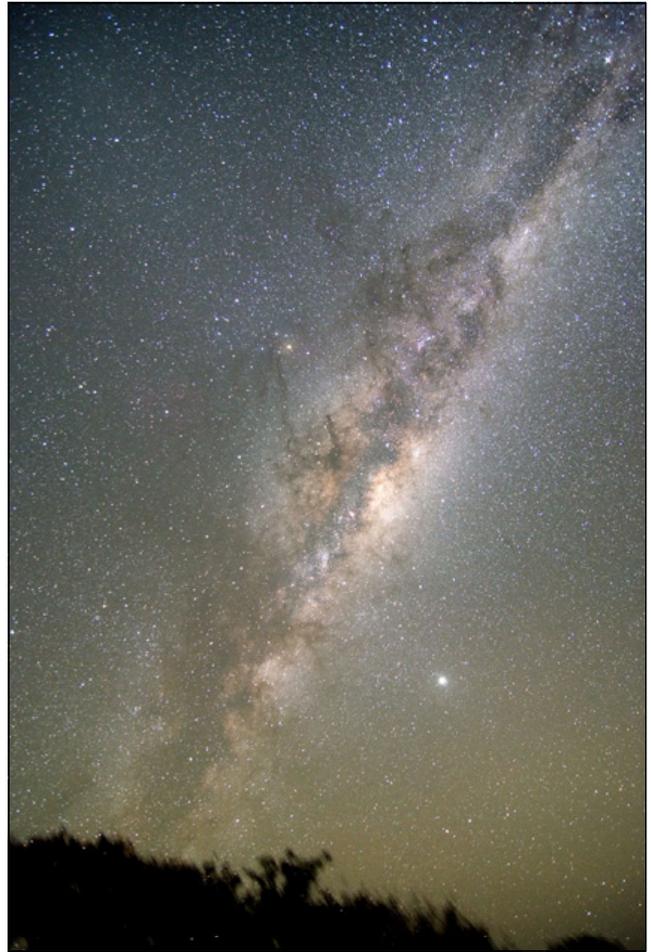
界23度)で眺めた天の川の光景は素晴らしく印象深いものでした。
ほとんどの同行の志は、カルネ(簡易輸出・輸入制度)を使用して大型望遠鏡(送料20~40万円)を現地に持ち込み凄い星雲・星団の写真を撮っておられました。これらの写真はこれから数ヶ月間、天文雑誌を飾ることでしょう。

今回で私のオーストラリア星見旅行も10回目となりましたが、毎回新しい感動を感じます。サポートして頂いた皆様に厚く感謝申し上げます。

写真共通データ カメラ: FujiFinpix S5pro
レンズ: Tokina 11-16mm (11mmで使用) Zoom F2.8
ポタ赤: タカハシ スカイポッド
露出: 4分 ISO=800



フオグフィルター使用しなかったときの「南十字座と散光星雲(イータ・カリーナ)」写真のテーマがわかりにくい。表紙のフィルターを使った写真では、明るい星が大きく写り、色の違いも明確にわかる。



昇る天の川
左上はさそり座、右下は木星



目的を合成写真に絞って撮影したのではなく、帰国後3枚を合成して作成しました。
今となっては、周辺の色や濃度が違うので、一つだけでも絞っておけば、と悔やんでいます。
それは別として、オーストラリアの草原に寝そべて眺めた「我が銀河系 天の川」の姿は大小のマゼラン星雲と相俟って、私にとってのベストショットになりました。

カナダ・アラスカにオーロラを求めて

横山明日香



3月9日から30日まで、カナダのユーコン準州からノースウエスト準州、そしてアラスカまでオーロラの写真撮影に行ってきました。

移動と宿泊は4WDのレンタカー車で、車中泊をしながらの自炊生活。月の光を背景に撮影したオーロラは、これまで見たどのオーロラよりも幻想的な色合いでした。特に、凍り付いた川の上に

冬期間のみ車が通行できるアイスロード上のオーロラや、街明かりの上に重なるオーロラも美しいものでした。また、川の中で凍ったまま冬眠している連絡船の姿は、時間までもが凍りついたような静寂な空間でした。

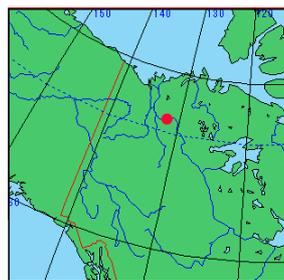
一方で、女性の一人旅ですから、タイヤがパンクすれば交換できないし、夜間エンジンが故障すれば、凍死する-44℃の決死の旅でもありました。それでも、車を止めて一人でご飯を作っていると、「Can I help you?」と声をかけられたり、帰り道のハイウェイが吹雪で閉鎖されて困ったときに5泊も無料で泊めてくれたり、別れ際に「Happy nice day」と励まされたり、たいへん親切にしてくださいました。それは、人口密度が極端に低い厳寒の地で生きる人達の助け合いという必要性から生まれた国民性なのかも知れません。

再び訪れるときは、命の保証に車2台で行けたら良いなーと感じて帰ってきた、「夢のオーロラ写真撮影の旅」でした。

この旅の写真は、来年9月に富士フォトサロン(札幌)、10月には富士フォトサロン(仙台)での写真展を開催予定です。これから、再度写真を整理しますが、この会場はフィルムメーカーの施設のため、基本的にデジカメ写真はNGと聞きました。高感度フィルムの大判プリントとなるため、やむを得ず銀塩写真の粒状などが強調されると思いますが、デジカメ全盛時代に、これを新鮮に見て頂ければと思っています。



主食「さとうのごはん」を炊く
写真では良くわからないが、-40℃では水蒸気がすごい



カナダのホワイトホースから最北到達地タクトヤクタック、そして国境を越えてフェアバンクスまで、6,700 kmを走破しました



マッケンジー川で時間が止まった貨物船を浮かび上げさせるオーロラと満月
-45℃のイヌービクにて撮影



夕暮れが終わる前から輝きだすオーロラは朝まで続く
デンプスターハイウェイにて撮影

D70Sに代えてFuji FinePix S3を購入したこと、およびホームズ彗星とカリフォルニア星雲の撮影については、前回紹介しました。今回は、F2.8の明るいレンズではなく、77ED II f=510 F=6.6の望遠鏡での撮影です。赤道儀の極軸が合っていないため（この件については、改めて投稿します）、長時間露出が出来ず、十分な濃度が得られませんでした。しかし、1~3分を何度か繰り返し、約10分間の露出をしました。ISO感度は1600としましたが、D70 s よりクールピクセルが少なく、粒状性は格段に上です。特に、暗い天体を持ち上げるとバックに横の筋が入るのですが、このカメラは

余程持ち上げない限り、筋が入りません。また、白黒ですが、ライブビュー機能なのでピント合わせも非常に容易で、星像は満足できる点像でした。

当日の撮影条件としては、対象が天頂にあったものの、極めて透明度の悪い夜であったので全く期待していなかったのですが、予想に反し良く写りました。

じつは、8月末から写真撮影のため、単身オーストラリアに出かけることにしました。それまでに、技術を磨くための一枚になったであろうことを期待しています。9月例会は欠席しますので、ご了承下さい。



FinePix S3Pro + 77ED II f=510mm 4枚合成 露出合計616秒 ISO=1600
2008/04/08 22:03 石狩市古潭観測所にて

4・5・6 例会出席者の一言

4月例会

後藤榮雄：国際宇宙ステーションの施設となる日本の実験棟「きぼう」は無事に上がり、先ずは「おめでとう」と言いたいところ。これからが楽しみです。中国に負けなように、ガンバラナクッチャー。

生田 盛：4月28日から、10回目の「オーストラリア星見旅行」に行ってきます。パースの南方150kmのウィリアムと言う地で、望遠鏡ショップ趣味人（シュミット）が主催する16人のメンバーです。

8月1日の皆既日食は、中国の政治情勢が不安定で、オリンピック直前なので中止の予定です。

西野 浩：1月からの仕事は休日返上のため、星は深夜の車内や除雪作業の時くらいしか見られませんでした。3月末で一段落しましたので、双眼望遠鏡のテスト・ビデオカメラによる星の撮影など行います。

越後恵子：忙しさにまぎれて夜空を見上げないうちに、春の星座になり、双眼鏡が使える季節になりました。今年は、山菜採りも早まりそうです。

中山 正：北海道洞爺湖サミット道民会議主催の

「ガイヤナイト」が3月30日に実施されました。どれくらい暗くなるか、自宅屋上で18時を迎え、条件の良い空の下、3.4等級まで確認しました。しかし、



リピーターの参加者（左）オープン参加の女性（右）
5月18日ムーンライトウオッチングにて撮影

写真撮影では空の違いはわかりませんでした。札幌テレビ塔の内側ライトアップは消えていましたが、

外側は点灯してしており、都心高層ビルの明かりも点灯していました。このようなイベントは継続して開催しないと定着しないでしょう。

柴田健一：編集後記をご覧ください。

5月例会

(第1週は参加者の都合が悪く、第2週に延期して開催しました)

生田 盛：オーストラリアに行ってきました。成果は1ページに掲載されていますのでご覧ください。

越後恵子：今年の山菜採りは殆ど行けず、夜空も見上げられなくて残念です。

西野 浩：望遠鏡の調整がまだですが、17日のムーンライトウォッチングに向けて今日・明日で頑張ります。

中山 正：札幌市緑の管理課にムーンライトウォッチング開催を申請してきました。今年も公式に大通公園で開催できるようになりました。5月17日に第一回目を開催します。協力をお願いします。昨年の暮れにペンタックスOptio E40とK10Dを購入しました。両機ともリニューアル時期で、カメラのキタムラで新品在庫処分のため安くなっていました。年度末の仕事も一段落し、4月より今年のアストロ活動が始まりました。4月9日やっとK10Dを天文で本格活用しました。istDSに比べるとマニュアル設定が簡単になり天体撮影には便利になりました。それよりも特にOptio E40は最大画素が8.1Mで撮影画像も良好で、付属の画像処理ソフトでさらに利用しやすくなりistDSより全般的に活用しています。動画も音声入りで、マルチメディアプレイヤーで再生でき、パソコンに取り込めて観測状況記録などに活用しています。難点としては、現在使用の画像処理用のパソコンでは、両デジカメの能力をフルに活用するためにはぎりぎりであり、撮影時や画像処理時に撮影画像の大きさをコントロールする必要が出てきたことです。さらなる上位機種を購入するためにはまず周辺機器の更新が必要になりました。

横山明日香：3月のオーロラの旅について報告しました。来年のフジフォトサロン写真展までに画像の出力方法を考えたいと思います。取材中、一番不思議だった満月後に、全く月が出なくなったことを皆さんと一緒に考えていただいて有難かったです。

6月例会

後藤榮雄：宇宙ステーションに「きぼう」実験棟が取り付けられ、半世紀前初めて人工衛星が打ち上げられた当時のことを思い出しています。今日は、元会員の佐藤利男さんも見えられ、なつかしい日に戻ったようです。

生田 盛：2ページに書きましたが、オーストラリアで撮影した天の川の3枚合成写真にチャレンジしています。しかし、思ったような写真になりません。対角120°のレンズでの仕上げは、予想以上に困難を伴いました。

越後恵子：国際宇宙ステーションは、知人の「親父バンド」でベンチャーライブの合間に、抜け出してみました。明るく大きかったので見応えがありました。飯沢さんの七宝焼きも「辻が花」のような色彩がとても美しかったです。(辻が花：室町中期から江戸初頭にかけて盛行した絵模様染め。草花文様を紅色に染



会場でISSを解説する実行委員の一人、白崎さん

めたもので、麻布の単物(ひとえもの)のかたびらに行われ、女性や子供が着たという。現在は縫い締め紋りによる絵文様染めの称。)

西野 浩：国際宇宙ステーションは、20時頃から空を見上げておりましたが、8:57の通過前に2個の人工衛星が通過していきました。宇宙ステーションの軌道が解らなかったので半信半疑でしたが、金星位の明るさだったので解りました。5月18日のムーンライトウォッチングは、寒い割には50人ほどの人に土星・月・アークツールズを見ていただきました。

中山 正：5月は天候と休みのタイミングが合わなく、星が観られませんでした。5月18日のムーンライトウォッチング参加と5月20日から札幌で開催された飯沢能布子さんの星の七宝展を見て感動してきました。6月に入ってからは、4日のISSの札幌上空通過を観ることができました。11月に予定している「もえれ沼公園で開催される天文・環境等イベント」の出展作品に活かしていきたいと思います。

柴田健一：編集後記をご覧ください。

佐藤利男：約40年ぶりに札幌例会に飛び入りで出席出席させていただきました。



(佐藤さんは昭和40年から42年ころの会員で、後藤顧問や当時の事務局を司っておられた大場さんをご存じでした。お仕事の関係で札幌を離れましたが、ようやく参加する機会が訪れたとのことで

す。また、氏は東亜天文学会の会員でもあり、「天界」に多くの投稿をされています。最近では後藤顧問の「ウルグ・ベク天文台」に並んで2007年9月に「バルセロナのモンジュイック城砦」(メートル測定の由緒を訪ねる)、2006年8月9日に「フランス語による『明治6年暦』と作者ビシェ(1)(2)、さらに2005年8月9日には「江戸浅草天文台の建物配置と諸設備(1)(2)等があります。中でも、2004年11月の「壇ノ浦合戦 私見『会員からのたより』」は拝読したことがあり、編集の「Y」先生の評にも納得したことを思い出しました。このような先輩会員がおられたことについて、同じ時期に会員であった小生は全く存じ上げず、たいへん失礼を致しました。

今後も札幌へ来られた節には、ぜひお出でいただき、色々とお話を伺いたく期待しております。：編集子)

事務局だより

「札天事務局便り平成 20年6月」は、Eメール・葉書に代えて「PLEIADES」に掲載しました。

1. 6月7日例会

生田、越後、後藤、柴田、西野、中山の6名、プラス元会員の佐藤利男氏が参加されました。旧知の後藤顧問と会話が弾み、再会を楽しまれていました。また、編集中の50周年記念の写真をしながら電気会館で行われていた当時の例会を懐かしんでおられ、また参加されたいとも、話しておられました。

生田会員より、オーストラリアの星空の続報の発表がありました。

2. 6月14日のムーンライトウォッチング

天候が悪く中止になりました。7月は12日に開催します。

3. こどもエネルギー探検隊

経済産業省資源エネルギー庁、産経新聞社、北海道文化放送が主催する「子どもエネルギー探検隊」が「ほくでん」の「とまりんかん」で開催され、夜間の部の協力要請がありました。

日時は8月5日（火）19：20～21：45。火曜日なので、都合のつかない会員が多く、柴田・中山・西野の3名で行うことにしています。内容は、昨年とほぼ同様で、子ども達は小学校4-6年生で札幌30人、岩宇地区30人です。ちなみにこの会の目的は「札幌（消費地）の子どもたち30名が泊村を訪れ、岩宇4町村（生産地）の子どもたち30名と一緒に主に「電気の作り方」を学ぶ。施設見学やミーティング、地元の人々との交流を通して、エネルギー、とりわけ原子力について子どもたちが自発的に考えて、理解を深める。」です。私たちは夜の部のアトラクションの位置づけです。

4. カルチャーナイト2008

桐光商会さんからの繋がり、柴田会長が協力します。開催場所は、100カ所あるうちの北海道大学総合博物館です。日時は、2008年7月25日（金）17：30～22：00です。

5. 2008さっぽろ星まつり

これも、桐光商会さんからの繋がり、9月6日・7日です。しかし、6日（土）は例会なので7日（日）の参加になります。6月26日現在、会長名での登録になっていますが、ムーンライトウォッチングのメンバーを中心に協力することを考えており、7月末までに札幌市青少年科学館へ回答します。会場は、前田 森林公園で、時間は、16：00～21：30です。

6. 7月27日

プレアデスを月齢24の月が隠す。下弦を過ぎた月なので経過観測や写真撮影もしやすい現象になります。

7. 7月例会

5日、札幌市社会福祉総合センター4階特別会議室 18時30分より始めます（会場は17時から使用できます）。18時30分から始めませんと、終わりが21時を過ぎて、センターの職員にご迷惑をかけております。今後も、時間厳守で出席お願いします。

8. 観測会中止

前回、神恵内にて宿泊観測会開催のお知らせをしましたが、施設が確保できず中止になりました。

旭川市科学館サイパル天文台見学 中山 正

3月23日（日）、仕事で「旭川グランドホテル」まで行って来ました。2時間程の空きができたので、科学館サイパルへ行ってみると、屋上に見えるドームのスリットが開いていましたので、躊躇なく立ち寄りしました。



駐車場の入り口が難しいので注意！
「南6条通り」から入ると、「新神楽橋」の前で
左にある「大雪通りの側道」から入る

天文台の見学は無料で、エレベータで屋上へ上がりました。大天文台の中は以外と広く65cmの望遠鏡がゆったり鎮座していました。この日の午前中は小天文台の20センチ鏡で太陽観測を公開。私が行った昼からは、大天文台での65センチ鏡で見る「昼間の星」でした。



正面は天文ボランティア職員で旭天の伊藤さん（20センチ鏡は、太陽の黒点観測があるので、科学館職員で旭天の石川さんのいることが多いみたいです）

最初は金星を、次に火星を見せていただきました。薄雲があり輪郭がはっきりせず、一般の見学者は苦戦していましたが、円い光点としての存在はハッキリ解りました。星像は、昔の中島天文台とは比較にならないほど良く見えました。揺らぎが少なく、接眼部も見やすく、夜空の星はすばらしい星像で

しょう。旭川に住んでいれば、夜間公開日には毎回見に来ていたでしょうね。



晴れ渡った先には十勝岳連峰が見えています
また、写真にはありませんが、90°左側には大雪山の峰々が望まれます

星の七宝展

中山 正

下記の展示会に行ってきました。「星が好き」という表現方法はたくさんあります。私とは異なる視点・手段で星への思いを伝えてくる作品に巡り会えました。『七宝焼きで表現された宇宙』に触れ、「私も星が好き」なんだと、改めて感じました。

— 星座と花 —

星の七宝展

飯 沢 能布子

2008年5月20日（火）～25日（日）
午前10時30分～午後7時（最終日5時）

全88星座の作品化に取組んできた12年を振り返りますと、豊かな発見の日々の思い出は尽きません。この度、南天の八分儀座や炉座、最終作となったエリダヌス座、それに現行星座との同定による北海道ゆかりの星座作品もあわせて、完成記念展を開催いたします。

一方の花シリーズには、アトリエ周辺で見られる聖書の花に水辺のものが加わりました。アクセサリーや日常小物も展示いたします。

御多用のところ恐縮でございますが、御高覧頂けますようお願い申し上げます。

道展会員 飯沢能布子

アトリエ 〒069-1312 北海道夕張郡長沼町12区アトリエ村
Tel.&Fax.0123-88-3368

さいとう
Gallery

札幌市中央区南1条西3丁目1番地
ラ・ガレリア5F
TEL.011-222-3698



星のマークが入っているだけのタイピンではありません
星好きの芸家が、心を込めて制作しました
キャロライン・ハーシェルの彗星タイピンもありました

オーストラリア南天写真撮影計画

柴田 健一

8月25日に日本を発ち、9月9日に帰国する。飛行機に乗るためのベース基地としてシドニーのホテルに前後各1泊するが、写真撮影は、レンタカーを使いオートキャンプ場をベースに活動する計画を練っている。

シドニーは、オーストラリア大陸の東にあり、ここは西側に大分水嶺山脈が南北に走っている。この山脈を横断して内陸に入ろうと考えており、200km西の「バサースト」という人口数十万人くらいの街の付近まで行こうと思っている。この地方に情報を持っている方がおられれば、ぜひお知らせ頂きたい。

4月末から生田さんはパースで天の川銀河を撮影してきた。同行した大方のメンバーは、撮影機材を「カルネ」という制度で別送したが、費用は数十万円かかるそうである。私は、GPD赤道儀に2本の77EDを載せる予定なので極端な重量にはならないものの、20+7kgはオーバーが確実である。バランスウエイトが6kg必要なのだが、これがなければ何とかなりそうである。11年前、シドニーに観光で行ったことがある。その際立ち寄った望遠鏡ショップ「BINTEL」のMike SmithさんにEメールしてバランスウエイトについて尋ねた。返信でシャフトの直径を聞かれたので20mmと返信したら、取り扱っている「スカイウォッチャー」製の望遠鏡と同じなので期待に応じてくれると回答が来た。重量追加の費用を航空会社に払うよりは安く手に入りそうである。使い終わったウエイトは、無料で購入したショップに引き取っていただきたいと考えている。

オートガイド（ガイドウオーク）や自動導入装置（スターブックタイプS）の、機材の確認作業をして、一日も早く新しい機材に慣れておきたいと思っている。

編集後記

柴田 健一

会報の発行回数を毎月から季刊に変更するとは、回数が減少するだけではない。編集方針の変更も必要になってくる。つまり、毎月であれば、次号へ続く的な流れが許されたが、時間が空いているから毎回完結しなければならぬ。一番困ったのが、「例会出席者の一言」である。3ヶ月分を纏めて掲載しても、情報が古いうえ、本文で例会の内容を全て紹介してないから読者には伝わりにくい。例会直後にホームページで紹介してはどうかと考えてみたが、文字の情報だけを掲載しても面白味に欠けてしまいそうである。苦し紛れに思うことは「例会出席者の一言」を掲載する目的とは？と考えさせられている。

ところで佐藤利男さんの例会参加には驚いた。在籍当時は一度もお目にかかっていないと思う。だが、どこかでお会いしているような気がしてならない。編集を終えた今、2003年東亜天文学会の総会に参加したことを思い出し記念写真をチェックした。案の定、二人おいた位置の1列違いの位置に写っていた。何という偶然であろうかと感じた。しかし、長らく天文をの活動を続けておられればこそその巡り会いであったと思う。これからも、天文の道を歩んで行く途中で再会したいと願っている。

発行：2008（平成20）年 6月30日 札幌天文同好会 Sapporo Astronomy Club

事務局：〒007-0845 札幌市東区北45条東9丁目2-33 TEL：011-741-8830

中山 正

会報編集・ホームページ：柴田健一 / 印刷：生田 盛 / 印刷部数：30

<http://www2.snowman.ne.jp/~Shibata/satten.htm>

郵便振替口座：02780-7-31295 名称：札幌天文同好会